

JHFREPORT



第7回JHFハングライダー・パラグライダーフォトコンテスト応募作品 高瀬吉康「グランドハンドリング」

2021年度定時総会を開催しました

6月17日（木）、TKP九段下神保町ビジネスセンター3Aにおいて、正会員（都道府県連盟）2名の出席と、議決権行使44名、合わせて全国46都道府県連盟の参加（欠席1名）を得て、2021年度JHF定時（通常）総会を開催しました。

新型コロナウイルス感染が終息せず、緊急事態宣言中でもあり、例年の定時総会の規模を縮小、時間短縮、人数制限をしておの開催でした。今回はバーチャル参加も可能とし、委員長を含む20名がオンライン参加しました。

議題は以下のとおりです。

目的事項

- 報告事項1 2020年度事業報告
 - 報告事項2 2020年度決算報告・監査報告
 - 決議事項1 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
 - 報告事項3 2021年度事業計画
 - 報告事項4 2021年度収支予算
 - 決議事項2 JHF役員選任について
- 報告事項の質疑及び決議事項1の承認がありました。決議事項2の役員選任

では、理事、監事立候補者全員が選任に必要な票数を獲得し、理事8人、監事2人が選任されました（次ページ参照）。

また、2019年に開催された「いきいき茨城ゆめ国体2019」で、茨城県ハング・パラグライディング連盟が、デモスポとしてハングライダー／パラグライダーの競技会を実施したことへの感謝状が贈られました。

総会議事録、理事会議事録は、確定後、JHFウェブサイトの「情報公開について」のページに掲載します。

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

新理事・監事が選任されました

JHFの新たな舵取り役・新役員の抱負

6月17日（木）の2021年定時総会において、正会員の投票により理事8名、監事2名のJHF役員が選任されました。また総会後に第1回理事会を開き、代表理事（会長・副会長）を決定。2年間の任期（2023年定時総会まで）中にどのような活動をしていくか、各人の抱負を聞きました。



理事 会長
和田 英二郎（神奈川県）

現在JHFが抱えている問題はたくさんありますが、それを一つ一つ解決する方向に向けていきたいと考えています。

フライヤー会員の減少については振興委員会を中心にさまざまな方々の意見を取り入れて進んでいきます。安全は普及の前提となる重要な問題であるだけでなく、事故が増え保険金支払いが増えればフライヤー保険を維持すること自体も困難となる恐れがあります。2020年度にJHFが保険会社に払ったフライヤー保険の保険料は約1160万円ですから、保険対象となる大きな事故が一つ起きただけで保険金が保険料を上回ってしまい、そういう事態が繰り返されると将来的な保険制度の維持が難しくなってしまうのです。安全には今後も力を入れて取り組んでいきます。

1982年の発足以来JHFには約40年間の歴史があります。もともと自由に空を飛ぶために機体や技能証、パイロット登録などの自主管理を行う団体であるというJHFの中核部分を維持しつつ、変化していく社会に対応できるJHFにしていきたいと思っています。JHFの理事会や事務局が行っている事務作業の合理化やデジタル化に着手し、今後も何十年も飛び続ける若い世代への引き継ぎを目指します。



理事 副会長
芦川 雄一郎（東京都）

四度理事に信任され、今季は副会長を拝命いたしました。

改めて重大事故ゼロ、愛好者の拡大、何より飛び続けられる環境の維持拡大に努めてまいります。比較的自由に飛行できるハング・パラを後世に継承していけるように、微力ながら協力させていただきます。



理事 副会長
小林 秀彰（福岡県）

3期目を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。教習検定委員に初めて就任したのが1994年、理事は2017年。JHFに関わってから28年目に入りました。きっかけは、教員に合格した年、京都ハングの坂本三津也師匠のお誘いでした。お陰様で師匠よりもJHFに関わるようになりました。

私は教員検定試験を2回不合格になり3回目で合格しました。その時不満だったのが検定システムのいい加減さでした。創成期ですから仕方がないかもしれませんが、受験内容の情報がなく、練習も事前学習も独学でするしかありませんでした。委員になってからは真っ先に技能証規程の改定に取り組み、受験内容が明確になるようにしました。私が言いたいのはJHFの改革をやるには改革できる役職に関わっていないといけないということです。

JHFは2年ごとに委員会、理事会の改選が行われます。来年は委員会の改選です。JHFを改革したいと思っている方は多いと思います。その思いを実現するためには、委員、理事に就任することが一番の近道です。「JHFを動かすのはJHF会員です！」



理事
大澤 豊（茨城県）

念願の、ハング教本が完成して引退をしようと思いましたが、JHFは会費改定が必要な状況になり、フライヤー会員増加に新しい挑戦も必要になると思います。また安全のためにやるべき課題に肅々と取り組みます。

ハング競技の普及、振興、レベル

アップも考えていきたいと思っています。



理事
竹村 治雄（奈良県）

私は、これまで安全性委員会並びにハングパラ振興委員会の委員として、JHFの活動に携わってきました。今後も、理事として、ハング・パラグライディングに関して、より多くの安全性に関する情報収集と分析を行える体制と制度の整備を行いたいと考えています。ハング・パラグライディングの普及と振興に関しても、このスポーツに対する一般の方々の理解を深め、同時にこのスポーツに興味を持たれた方が実際に始める際に何が障壁となっているかを分析し、より多くの方がこのスポーツを楽しめる環境の構築に貢献したいと思っています。

私は、大学でIT系の教員としての情報通信やe-Learningに関する教育・研究を行っていますが、この経験を利用して、組織運営の効率化、迅速な情報公開、情報発信力や安全教育の強化にも貢献したいと思っています。また、これらの活動を通して組織の健全な発展を目指したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



理事
橋田 明夫（香川県）

今回理事に立候補した経緯は、定年退職をして時間に余裕ができ「ボランティア活動をしたい」と考えていた矢先に、JHFの先輩から理事に立候補しないかと誘われて「これまで私の人生に潤いを与えてくれたパラの世界に恩返しをしよう」と思い立ったからです。

私はこれまで補助動力委員としてJHFのお手伝いをさせていただいていましたが、これからは更に時間をかけてJHFの発展のために働きたいと思っています。

JHFを取り巻く現下の状況は決して楽観視できるものではありませんし、

その状況を改善できる道筋が見えてくるわけでもありません。そのような中で「何ができるのか」と自問自答すると、焦りしか感じませんが、着実に一步一步進むしか解決の方策は無いと思います。

私にできることをしっかりと見据えて、微力ですが貢献できればと思っていますので、どうぞご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



理事
濱田 革（北海道）

新たに理事に就任しました。

道内でもフライヤー減少が著しく、愛好者の増加が必要不可欠であり、愛好者を増やすためには安全対策は欠かせません。しかしながら12年間の北海道連盟の業務を通じ、これらの取り組みの難しさを実感してきました。前職の経験から、新たな取り組みの企画立案は一人で考えるのには限界があり、様々な意見を出し合う議論が必要と考えています。

一方私自身は、この3月に定年退職し、これからは再就職せずにハング・パラ一色の生活を送る予定で、まず今後3年間は、全国のエリアを訪問したいと考えています。そこで、前述の課題について、JHF組織内だけでなく、全国の現状を実感し、全国の仲間とこのことについて議論し、取り組んで行きたいと考えております。よろしくお願いいたします。



理事
山口 隆文（石川県）

JHFの活動としてはハングパラ振興委員会／教員・スクール事業員会を通算4期務め、このたび理事に選任されました。

19歳からこの世界の現場の人間として働き感じたこと、そして経営するスクールを通して感じてきたことを伝え、より良くするためには何が必要か、皆様と考えていきたいと思っています。

JHFの近々の課題であるフライヤー人口の増加であります。JHFだけで何とかできるようなことではありません。全国のスクールや教員の皆様でフ

ライヤー会員をひとりずつ増やしていくような地道な努力をお願いするしかないと考えます。

JHFとしては、その土台をしっかりと作っていかなければなりません。

そして、どんな努力をすることが良い結果に繋がるのかを、現場の意見を吸い上げ、委員会と理事会が連携し、しっかりとその道筋を出していかなければならないでしょう。

悲観的なことだけではありません。近年、パラグライダー大会への参加者が増加し、競技への人気が高まりつつあります。これは明るい兆しです。競技が発展しているスポーツは愛好者が増加する傾向にあります。これを好機と捉え、次世代に残せるような、素晴らしいハンググライダー・パラグライダーの世界をフライヤーの皆様と作り上げたいです。



監事
岩村 浩秀（東京都）

5期目の監事に就任いたしました。

JHFの現状において一番の問題点は会員数の減少で、会員の高齢化の問題がこれに続きます。

重大事故が相変わらず発生していますし、事業者（スクール・販売会社）はコロナウイルスの影響も相まって経

営難に陥っているのが現状です。事業者の経営難は、新規のフライヤー募集の減少につながりますし、一般フライヤーへのサービスも低下するため、業界全体がジリ貧になっていくこととなります。

さらにこの現象はJHFの財政問題にも発展し、今回の会費値上げへとつながってまいりました。

今回の総会では久しぶりに理事が一新したこともあり、新しい視点でこれらの問題に対応していくこととなります。とはいえ、会員の皆さんの協力なしには運営できない団体でありますので、是非ご協力いただきたく願います。



監事
大森 健一（茨城県）

この度、2期目の監事を務めさせていただきますこととなりました。

コロナ禍になり、益々フライヤーの減少が気にかかる場所です。そんな中でも、JHFは飛ぶことを愛する人達のための大切な大きな枠組みであると思います。

フライヤーのためにJHFがより良く発展していけるように、監事として尽くしていく所存です。

JHFフライヤー会員年会費を変更しました

JHFレポート231号～233号でお知らせしたとおり、2021年4月1日にJHFフライヤー会員年会費を5,000円から7,000円に変更しました。

4月1日以降に更新時期を迎えたフライヤー会員の方、4月1日以降に新規でご登録の方は、1年会費7,000円、3年会費21,000円に変わりました（自動振替は手数料無料、ゆうちょ銀行・郵便局・コンビニエンスストアでお振り込みの場合は別途手数料をご負担願います）。

システムの切り替えのため、会費の払込票も変わりました。2021年1月31日までにお送りした更新払込票は、4月1日以降はご利用いただけ

ませんので、ご注意ください。今後更新の方で、旧払込票や銀行振り込み等により旧会費でお支払いの場合は、新会費との差額を改めてお振り込みくださるようお願いいたします。

会費を自動振替にされている方も2021年4月1日から新会費になりました。更新時に残高不足や口座不備等でお引き落としができなかった場合は、お振り込みをお願いすることになります。お引き落とし日までに口座残高等のご確認をお願いします。

お問い合わせは、JHF事務局までメールでお願いします（事務局業務の効率化のためご理解ください）。
info@jhfhangpara.or.jp

JHFの2020年度事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2020年度事業報告」より

I 概要

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて国際大会が中止になるなどしました。そういう状況の中で日本選手権はハング、パラともに開催することができ、上級タンデム検定も5回開催することができました。またパラグライダー教本改訂版を発行することができました。2021年度はワクチン普及に伴って、各種の活動が次第に活発になることが期待されます。

フライヤー会員数の減少に伴い、JHFではフライヤー会費を年額5000円から7000円に改定しました。今後とも従来に増して経費の節約に努めていきます。更に、重要な保険制度については、フライヤー自身のケガを保障するJHF総合保障制度の加入者の拡大を図ります。フライヤー人口は少しずつ減少を続けていますが、教本作成や安全セミナーなどを通じて事故を防止し、重大事故0と新会員獲得に取り組んでいきます。

1. 収支の現状

2020年度予算は委員会関係を中心に支出を10%削減する内容で組まれました。そのうえで、昨年度取崩した公益目的事業基金を半分費消する予算案でしたが、実際には2020年3月から本格化した新型コロナ感染拡大対策の影響で、競技関係など予定された事業が実施できず未消化予算が積み重なりました。このため一時的に手元資金が過剰な決算となりました。しかしながら、この決算によりJHFの収支に余裕が出た訳ではありません。新型コロナの経済的影響の今後の見通しは、全く不透明です。JHFでも偏ることの無い堅実な運営を進めます。

2. 組織運営等

- 1) 教員検定員による教員助教員更新講習会を14か所で開催、78名が受講
- 2) レスキューパラシュートリバック更新講習会を4か所で開催、5名が受講
- 3) 教員技能証学科検定については総合研修検定を2月27日～28日に開催、7名受検
- 4) 上級タンデム検定会を開始、5か

所で開催、49名受検

- 5) 第7回JHFフォトコンテストを開催

II 事項別状況

1. 組織

- 1) 会員数
正会員47 フライヤー会員6,573名(2021年3月末有効登録数) 賛助会員11
- 2) 役員構成(2021年3月末現在)
理事7名(内会長1名、副会長2名)
監事2名

2. 会議等の開催

- 1) 総会
2020年6月通常総会(新型コロナウイルス感染症拡大予防対策により9月に開催延期)
開催通知:2020年4月5日(金)、8月5日(水)
開催日:同年9月2日(水)13時～16時
開催場所:北とぴあ7階・第二研修室(東京都北区王子)
議案:

報告事項1:2019年度事業報告について 報告事項2:2019年度決算報告について 決議事項1:貸借対照表及び損益計算書の承認について 報告事項3:2020年度事業計画について 報告事項4:2020年度収支予算について 決議事項2:会費値上げについて 決議事項3:JHF役員選任規約改正について

- 2) 理事会()内は出席者数
第1回 5月21日(理事7、監事1内リモート出席5)
第2回 6月26日(理事7、監事1内リモート出席2)
第3回 7月21日(理事7、監事2内リモート出席3)
第4回 10月15日(理事7、監事1内リモート出席6)
第5回 12月4日(理事7、監事1内リモート出席6)
第6回 3月10日(理事8、監事1内リモート出席5)
文書理事会 8月5日、9月1日、10月19日、12月23日、1月5日・13日・27日、2月15日、3月18日

- 3) 委員会

■ハンググライディング競技委員会

11月22日、他競技会開催時に実施

■パラグライディング競技委員会

7月25日、他競技会開催時に実施

■補助動力委員会

10月23日、2月3日

■教員・スクール事業委員会

4月6日、6月15日、12月15日・16日

■安全性委員会

3月17日

■制度委員会

5月12日、6月25日、7月30日、2月

10日、3月13日

■ハングパラ振興委員会

6月3日、10月28日、3月10日

■役員選任実行委員会

4月22日、3月11日

■委員長理事合同会議

3月2日

2020年度は、ハンググライディング競技委員会、パラグライディング競技委員会(大会中での開催)以外は、全ての委員会がリモート会議で行われた。上記のほかSNSや電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

3. 事業の実施状況

- 1) 普及振興活動

■JHFレポートを発行(4月、7月、11月、1月)*独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成を受けて発行しています。

■都道府県連盟事業費の交付

■日本学生フライヤー連盟へ助成金の交付

- 2) フライヤー会員登録

2020年度新規・更新登録数4,996名(2019年度5,145名)

- 3) 技能証発行()内は2019年度ハンググライダー86枚(199枚)

パラグライダー779枚(782枚)

モーターパラグライダー9枚(11枚)

レスキューリパック認定証24枚:新規5・更新19

- 4) 競技会の主催・公認・後援

ハンググライディング3件(内FAIカテゴリーI・II:3件)

パラグライディング12件(内FAIカテゴリーI・II:2件)

ハンググライディング・パラグライディング同時開催0件

5) 競技会の開催

■ハンググライディング

◇日本選手権 10月1日～4日 茨城県石岡市板敷山エリア 参加40名 不成立

◇クラスV日本選手権 10月31日～11月3日 茨城県石岡市足尾山エリア 参加16名 日本選手権者：山口裕之

◇ハンググライディングシリーズ（参加68名、成立大会3） 1位：名草慧 女子1位：野尻知里

◇ハンググライディングフライトコンテスト [ストレートディスタンス] クラスV 1位：松田隆至 (216.44km) クラスI 1位：田中猛 (236.80km) [アウトアンドリターン] クラスV 1位：佐々木則生 (153.48km) クラスI 1位：石坂繁人 (68.87km) [トライアングル] クラスV 1位：松田隆至 (119.14km) クラスI 1位：石坂繁人 (108.47km) [デュレーション] 1位：中西亮太 (7:20:11)

■パラグライディング

◇日本選手権 9月18日～22日 茨城県石岡市足尾山エリア 参加69名 日本選手権者：成山基義 女子日本選手権者：平木啓子

◇アキュラシー日本選手権 11月28日～30日 静岡県富士宮市猪之頭エリア 参加28名 日本選手権者：岡芳樹 女子日本選手権者：山口香代

◇ジャパンリーグ（参加114名、成立大会3） [オープンクラス] 1位：成山基義 女子1位：平木啓子 [スポーツクラス] 1位：長島信一

◇ジャパン2リーグ（参加138名、成立大会4） 総合1位：中川喜昭 女子1位：坂本智春 チーム1位：チーム印南

◇クロスカントリーリーグ（8名199本） 1位：中川喜昭 (321.1km) 最長フライト：中川喜昭 (179.8km)

◇アキュラシージャパンリーグ（参加36名） [スクラッチクラス] 1位：岡芳樹 女子1位：山口香代 [ハンディキャップクラス] 1位：古賀光晴 [学生クラス] 該当者なし [チーム] 1位：

スカイ朝霧

6) スクール・エリア情報の収集及び公開

■スクールサイト登録校167件（削除2件、新規2件）

■エリア情報掲載174件（削除0件、新規2件）

7) 海外関係団体活動

■CIVL総会 2021年2月4日～7日 リモート（ZOOMミーティング）出席者：岡芳樹（デレゲイト）、牟田園明（オルタネート）

8) 世界選手権等へのチーム派遣

■第9回FAIハンググライディングクラス5世界選手権/第14回FAIハンググライディング女子世界選手権 4月19日～5月1日 アメリカ →中止

■第4回FAIパラグライディング・アキュラシーアジア選手権 5月30日～6月7日 カザフスタン →延期（開催未定）

9) その他

■機体型式登録0件

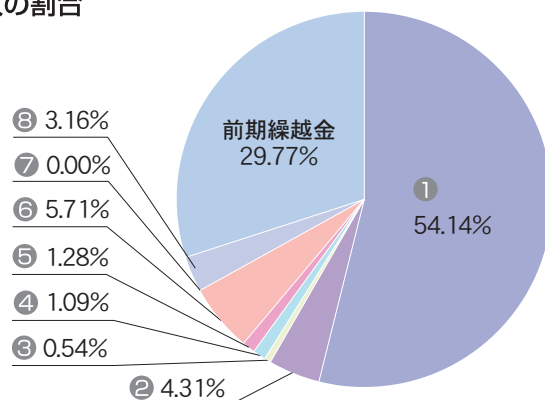
■機体情報登録0件

2020年度決算報告より

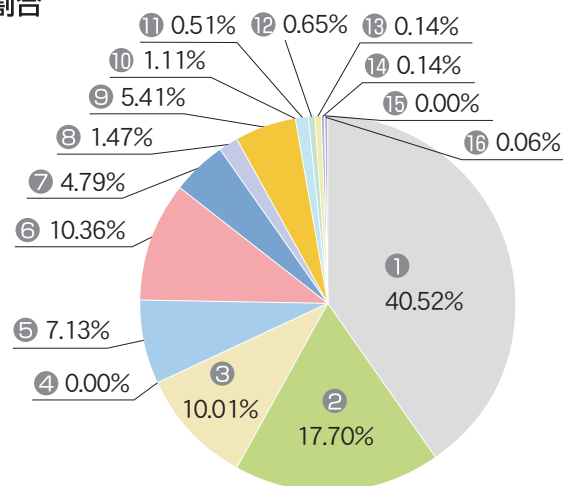
収 入 (単位:円)	
① 会費等	35,276,913
② 技能証の発行に基づく収入	2,806,000
③ 競技に関する収入	354,000
④ 教本等の頒布に伴う収入	712,200
⑤ 検定会参加費	833,000
⑥ 補助金	3,722,711
⑦ 機体登録費	0
⑧ その他	2,057,033
前期繰越金	19,399,724
合 計	65,161,581
特定資産取崩	1,300,860

支 出 (単位:円)	
① 会員サービスのために	19,712,371
② JHFの維持運営のために	8,610,775
③ 都道府県連盟の補助のために	4,868,250
④ 公益事業の推進のために	0
⑤ 世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	3,466,597
⑥ 広報・普及活動のために	5,041,988
⑦ 日本選手権や国体デモスポのために	2,329,216
⑧ 競技のために	715,435
⑨ よりよい教習環境のために	2,630,706
⑩ 委員会活動のために	540,000
⑪ 補助動力のために	250,000
⑫ 学生の補助のために	315,000
⑬ 事故調査や安全のために	69,680
⑭ 海外との交流のために	70,000
⑮ 制度のために	0
⑯ 総会のために	29,310
合 計	48,649,328

収入の割合



支出の割合



2020年度の委員会活動

2021年JHF総会資料「2020年度委員会活動補足」より

JHFの常設委員会は現在八つあり、各委員は連盟活動の担い手として活躍しています。以下は2021年総会で報告された委員会の活動内容です（一部略、HG：ハンググライディング、PG：パラグライディング、MPG：モーターパラグライディング）。

ハンググライディング競技委員会

委員長：牟田園 明

- 1) ルールブックの改訂
- 2) 委員会ホームページの運営
公認大会の情報、ハングシリーズ大会のエントリー情報の更新は随時実施
- 3) 第9回FAIハンググライディングクラスV世界選手権選手派遣(Grovelandアメリカ) スポーツクラス、クラス2、女子も併催予定だったが、感染症拡大の影響を受けて開催中止
- 4) 2020年ハンググライディング・クラスI日本選手権開催（茨城県板敷山エリア）10月1日～4日 40名参加
タスク2本成立・日本選手権不成立
当初は3月に予定されていた大会を10月に延期。成立条件を満たさなかったため、日本選手権者は不選出。
- 5) 2020年クラスV日本選手権開催（茨城県石岡市足尾山エリア）10月31日～11月3日 16名参加
タスク2本成立
日本選手権者：山口裕之、2位岡田伸弘、3位山本剛
- 6) ハンググライディングシリーズ管理運営 参加68名 総合1位名草慧、2位鈴木由路、3位田中元気 女子1位野尻知里、2位鈴木皓子、3位内田秀子
クラスV 1位板垣直樹、2位塩野正光、3位岡田伸弘
- 7) フライトコンテストの運営
[ストレートディスタンス] クラスI 1位田中猛236.8km、2位砂間隆司148.32km、3位芳賀亮太132.2km
クラスV 1位松田隆至216.44km、2位穴戸俊之164.84km [アウトアンドリターン] クラスI 1位石坂繁人68.87km、2位砂間隆司54.56km、3位田中元気40.84km
クラスV 1位佐々木則生135.48km、2位松田隆至133.9km、3位古坂学俊86.66km [トライアングル] クラスI 1位石坂繁人108.47km、2位田中元気43.38km、3

- 位太田昇吾42.34km クラスV 1位松田隆至119.14km、2位山口裕之114.44km、3位穴戸俊之99.46km [デュレーション] 1位中西亮太7:20:11、2位田中猛5:59:49、3位太田昇吾5:05:18
8) 各種大会のJHF公認および後援申請に対する審議および承認
9) SNSによる情報発信

パラグライディング競技委員会

委員長：岡 芳樹

- 1) ルールブックの改訂
- 2) ウェブ事務局・ホームページ管理
- 3) Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理
[Jリーグ] 参加114名、成立大会2
オープンクラス 1位成山基義、2位廣川靖晃、3位平木啓子
オープンクラス女子 1位平木啓子、2位成山奈緒、3位中目みどり
スポーツクラス 1位長島信一、2位川名啓、3位早坂真有美
[J2リーグ] 参加138名、成立大会4
総合 1位中川喜昭、2位坂本智春、3位木村勇 女子 1位坂本智春、2位四方純、3位鈴木彩 チーム 1位チーム印南、2位TEAM沢の霧、3位コナモン
[XCリーグ] 8名、19本
1位中川喜昭321.1km、2位二三四藤昭238.5km、3位小林敦之204.6km
最長フライト中川喜昭179.8km
[AJリーグ] 参加36名、成立大会5
スクラッチクラス 1位岡芳樹、2位和田浩二、3位日野政浩
スクラッチクラス女子 1位山口香代、2位成山奈緒、3位伊藤まり子
ハンディキャップクラス 1位古賀光晴、2位岡芳樹、3位日野政浩
学生クラス 該当者なし
チーム 1位スカイ朝霧、2位びよびよ、3位ばいんぐすかい
4) 2020年度XC日本選手権開催（茨城県足尾山エリア 9月18日～22日）
タスク3本成立/5日 69人参加
規定により日本選手権として成立。日本選手権総合 1位成山基義、2位小林大晃、3位星田真一、4位岩崎拓夫、5位廣川靖晃、6位平木啓子
日本選手権女子 1位平木啓子、2位中目みどり、

- 3位成山奈緒
5) 2020年度アキュラシー日本選手権開催（静岡県猪之頭エリア 11月28日～30日） 8ラウンド成立 28人参加
規定により日本選手権として成立。
日本選手権総合 1位岡芳樹、2位森山拓、3位川村眞、4位塚原隆信、5位山口香代、6位菊田高司
日本選手権女子 1位山口香代、2位菊田久美、3位伊藤まり子

安全性委員会

委員長：竹村 治雄

- 1) 2020年度事故件数
PG17件（内重大事故4件）、MPG2件（内重大事故1件）、HG4件（内重大事故0件）
 - 2) PG・MPGパイロットセミナーの開催実績
11月7日 PG 愛知県連・岐阜県連 合同安全セミナー 加賀山
 - 3) 事故報告書の作成
霊石山ハンググライダー事故報告書
 - 4) セーフティーノーツの管理（担当：竹村）
定期的にDHV、BHPA等の情報を確認し、可能な範囲でウェブに反映
 - 5) ハング機体整備制度・現状調査（担当：西本）
 - 6) 安全性委員会ホームページ状況管理（担当：伊尾木）
定期的に確認
 - 7) JHFレポートでの安全に関する記事の掲載
 - 8) JHFウェブページによる注意喚起情報の提供
・パラグライダータンデムフライト中のマスク着用について
・フランスでのタンデム死亡事故について
・MPG重大事故発生に関して（補助動力委員会と連名）
・カラビナにおける変形について（教員・スクール事業委員会と連名）
 - 9) チェック5タグの普及促進（安全注意喚起）
- 【5項目】レスキューピン、ラインチェック、バックル（レッグ→チェスト）、無線機（通信→ロック）、風の状況

- 10) JHF新型コロナ感染予防対策ガイドラインの作成（教員・スクール事業委員会と連名）
11) 機体登録制度の推進と改訂検討（EN926-1、EN926-2認証機体の登録簡素化）

教員・スクール事業委員会

委員長：北野 正浩

- 1) PG・HG・MPGパイロット安全セミナーの開催
2) 教員実技検定会 PG 3 名、HG 0 名
3) 教員学科集合検定会（2021年 2 月 27 日～28 日）参加者 7 名（受検 PG 6 名、HG 0 名、MPG 1 名）
4) 上級タンデム技能証検定会 5 か所 49 名受検
5) 教員助教員更新講習会 14 か所 78 名受講
6) レスキューパラシュートリパック認定証更新講習会 4 か所 5 名受講
7) レスキューパラシュートリパック認定証検定会 新規認定 6 名
8) PG 教本改訂版の発行
9) HG 教本の発行（最終校正段階。PG に続いて発行）
10) 教員の資質向上（教員・助教員更新時に「保留」可能に）
11) 教員検定員連絡会議を設置。検定員相互と委員会が緊密に連絡できるようにし、教員・助教員の実技水準統一を目指す。

補助動力委員会

委員長：須藤 彰

- 1) 事故報告・クレーム
9 月 13 日 千葉県野田市 利根川に MPG 墜落 30 代女性 試乗機フライト
12 月 27 日 愛知県豊田市 エンジン始動時にプロペラが頭部にあたり重症

- 台の上でエンジン始動 60 代男性
2) 補助動力と安全性委員会から注意喚起を出す（水没事故対応）
3) イベント大会・活動に関して
6 月 青森県 MPG 安全セミナー 青森県連 30 名参加
10 月 1 日～4 日 JHF・JPMA 共催 パラモーター全国大会 in 久住高原 大分県久住高原で地域のウォーキングイベントと合わせて開催 参加者 44 名
コロナ対策をして開催
1 月 新千歳空港事務所への回答（MPG の空港近くでのフライトについて）
2 月 27 日、28 日 教員学科集合検定会

制度委員会

委員長：中瀬 誠

- 1) JHF にかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理
1) 理事会諮問事項への答申等
規程改正案作成と理事会上程
JHF 技能証規程
教員助教員の申請資格に関する改正
2) JHF 技能証規程改正
技能証規程の分割を提案し改正案を作成
改正後の技能証規程構成
(G) 総則編
(H) ハンググライディング技能証規程編
(P) パラグライディング技能証規程編
(M) モーターパラグライディング技能証規程編
(R) レスキューパラシュートリパック認定証規程編
3) JHF ホームページ上の総覧整備（規程改正および FAI 部分）
<https://jhfh.hangpara.or.jp/office/office.html>

- 4) FAI 技能記章、公式立会人に関する事項の研究
2) 他委員会および事務局との連携
1) 各種制度導入および改正について
教員・スクール事業委員会と検討
JHF 教員助教員更新講習会規程
PG 教本の改訂作業に協力（JHF 技能証規程を改正）
2) JHF 役員選任規約を役員選任実行委員会とともに検討
2020 年通常総会へ改正案を上程

ハングパラ振興委員会

委員長：井上 潔

- 1) 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討（継続）
－フライヤーボイスの定期更新体制の運用と継続的見直し
－飛ぶのを止めてしまった方の状況分析
－学生が卒業して止めてしまう問題の分析と対応策検討（学連と連携）
－家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ（仮称）」制作、学生向けに配布
継続的に随時更新
－JHF レポートの活用（特集記事執筆）
－SNS（Facebook 等）を活用した情報発信の検討
－スポーツナビの活用提案
2) 体験会等イベントへの協力
3) 外部組織との連携
－VR 体験に関する大学研究室との協力体制維持

役員選任実行委員会

委員長：鈴木 由路

- 1) 2021 年通常総会における役員選任の準備
2) 役員選任規約の改定検討

映画「ブルーヘブン」を君に」のご紹介

ハングパラ振興委員会 委員長 井上 潔

ハンググライダーをストーリーのメインに据えた映画が公開されました。「ブルーヘブン」を君に」
主演：由紀さおり
原作・監督：秦建日子
公開：2021 年 6 月 11 日
公式サイト：
<https://blueheaven-movie.jp/>
珍しいパラ「ブルーヘブン」栽培の

第一人者の女性が余命半年を宣告され、人生でやり残した事として選んだのは「ハンググライダーで飛ぶ」こと。タンデムではなく、自分の操縦で、空を飛びたいという思いを叶える……というストーリーで、周囲からは不可能だと思われたことを実現していく物語です。
メインの撮影地は岐阜県の池田山

で、多くの方には見たことのある風景が出てくるかもしれません。原作・監督の秦さんは、取材するにあたって、実際のハンググライダーを知るために、スクールに入校して練習もされたのだそうです。
フライヤー会員の皆さんには周囲の方も誘い合わせの上ぜひ観ていただきたいと考え、ご紹介いたします。

安全マージンについて考える

JHF安全性委員会 担当理事 竹村 治雄

常に安全マージンを確保する

安全にフライトするとは、十分な安全に対する余裕を確保してフライトすることが大きく関係します。今回のJHFレポートでは「安全マージン」について考察してみたいと思います。

安全マージンとは、乗り物などで想定とは異なる事態が発生したときにどの程度までそれを許容できて安全にその乗り物を運用できるかの余裕や許容範囲のことを指すと言われています。

たとえば、貨物自動車の積載量を超えて荷物を積載した場合でも、適切な安全マージンが設定されていれば、すぐに自動車に不具合が生じることはありません。同じように、ハング、パラでフライトする場合でも、飛行の全過程において想定外の事態が発生したときにどの程度安全にフライトあるいはランディングできるかに安全マージンが関係します。

スカイスポーツでは、個人の技量やグライダーの性能などで飛行できるギリギリの条件でフライトすると、安全マージンは限りなくゼロに近いということになり、どれだけその状態への余裕を持ってフライトするか、また、想定外の事態に対応できるプランをどれだけ用意しておくかで、安全マージンが変わることになります。以下スカイスポーツの安全マージンに関係すると思われることについて考えてみたいと思います。

安全マージンに関係する要素には、機体の特性、操縦者の体調や技量、天候など、さまざまなことがあげられます（図1）。また、安全マージンは、

フライトプラン、プレフライトチェック、テイクオフ、フライト中、ランディングアプローチとランディングとも関係します。それぞれについて具体的に考えてみましょう。

【フライトプラン】

フライトプランでは、その日の天候、自分の体調、フライトするエリアの特性を考えて、安全マージンを確保したプランを立てることになります。

たとえば、午後から積乱雲の発生が予想されるのであれば、午前中早めからフライトする計画を立てます。また自分の体調を管理し、睡眠不足や疲労、二日酔い等の無い万全な状態でフライトに臨むことができるかどうかを冷静に判断し、計画を見直します。そして、エリアが山岳エリアか海沿いのリッジエリアかなどの条件を考慮して、その日のフライト目標を立ててください。

クロスカントリー飛行が難しそうなコンディションでクロスカントリーの計画を立てることは、安全マージンを小さくしてしまう要因につながる場合もあります。穏やかなコンディションで長時間飛ぶのが困難であれば、その分基礎的な技術の習得や復習に充てるなど、ポジティブな目標を持ってフライトすることもよいかもしれません。

【プレフライトチェック】

すでに何度も申し上げたことですが、セルフチェック、クロスチェックを徹底することが、プレフライトチェックでの安全マージンを高めることになります。またテイクオフの気象



チェックファイブタグを活用して安全マージンを高く。

条件も再度確認し、今後気象条件が変化する兆候がないかも確認しましょう。

チェックファイブタグはお守りではありません。ハーネスの目につきやすい場所につけて毎回チェックして初めて御利益が得られます。

【テイクオフ】

テイクオフは、その時々コンディションで安全マージンが最も高くなる方法を選んでください。

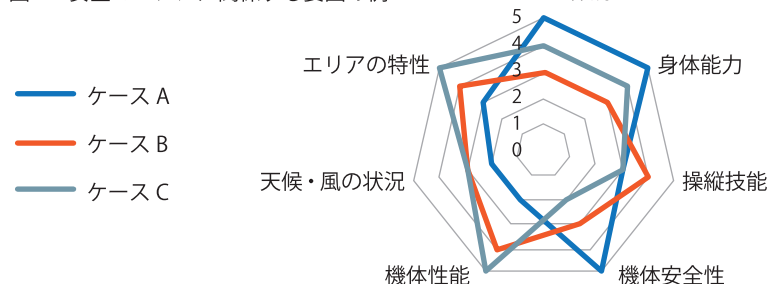
パラグライダーの場合、フロントライズアップするカリバースライズアップで立ち上げるかは、テイクオフの風や地形が関係します。「フロントライズアップは長いこと練習していないので、無風でもリバースで出ようとする」よりは「リバースに適した風が吹くまで、テイクオフで待機する」ほうが、テイクオフの安全マージンは高くなります。もちろん、フロントライズアップを練習した方がよいのですが。

【フライト】

フライト中は常に他機警戒をし、荒れたコンディションでフライトするのであれば、乱流による潰れへの対策がきちんとできる状態でフライトすることが安全マージンを高めます。

パラグライダーでのフライトで、ランディングへの向かい風が大きくなり、「アクセルを踏まないといけないかも？」という状況では、アクセルを踏むことにより生じる迎え角の変化が乱流による翼の潰れに対するマージンを小さくします（潰れる可能性が大きくなります）。また、ランディングアプローチも制約を受けます。ギリギリ

図1 安全マージンに関係する要因の例



届くかわからない状況でフライトを続けるよりは、確実にランディングできるサブランディングへ向かうほうが、安全マージンの大きいフライトとなります。

【ランディングアプローチとランディング】

動力の無いハング・パラはランディングをやり直すことはできません。そのため、ランディング近くでのシンクやサーマルへの対応を常に考えておく必要があります。あなたのフライトエリアのランディング場が、たとえ広大であったとしても、常にそのランディング場のどこを目指して着地するかを意識したフライトを行うことが、ランディングにおける安全マージンを高めることにつながります。

これは、常にターゲットに降りるという意味ではありません。常に着地点を意識してグライダーをコントロールし、その上で、何らかの外乱やトラブルがあった場合は、その時点の判断で、ランディング場内で最も安全に降りられる場所に降りましょう、ということです。場合によっては、アウトランやツリーランが最も安全な選択肢ということもあり得ます。

真夏のフライトに向けて

JHFでは2018年、2019年と、夏に事故ゼロキャンペーンを行ってきました。新型コロナウイルス感染症の影響がスカイスポーツにも及ぶ中、今年はキャンペーンは実施しませんが、引き続き脱水症や積乱雲に気をつけて、安全なフライトを楽しみましょう。

あなたの投稿、大丈夫ですか？

いることがあります。

フライトの記録をインターネットにアップする前に、いま一度見直してください。他のフライヤーや一般の人が見て、どうかな？と思われるようなことのないよう、気をつけてください。

もちろん、インシデントの共有としての画像、映像の投稿はこの限りではありませんが、ハング、パラの知識の無い方に誤解を与えないよう配慮をお願いします。また、その際はJHFのインシデント報告への共有もよろしくお願いします。

JHFの動き

新理事会始動

各理事の担当が決まりました

6月17日（木）のJHF定時総会において選任された理事・監事が本格的に活動を開始。総会直後の理事会で代表理事（会長・副会長）を決定、7月1日（木）の理事会で担当委員会を決定しました。

- パラグライディング競技委員会
濱田 革 山口隆文（副）
- ハンググライディング競技委員会
大澤 豊

●補助動力委員会

橋田明夫

●教員・スクール事業委員会

山口隆文 橋田明夫（副）

●安全性委員会

竹村治雄 小林秀彰（副）

●ハングパラ振興委員会

芦川雄一郎 濱田 革（副）

●制度委員会

小林秀彰 竹村治雄（副）

欠員補充のため

新委員を選任しました

在任中の委員が理事に選任されたこともあり、7月1日理事会で下記の委員2名の補充が承認されました。

篠塚富偉：ハングパラ振興委員会／
役員選任実行委員会

小川勝良：補助動力委員会



総会は感染対策のため時間短縮、人数制限をして開催。

県連だより

■初飛びフライヤーを応援します 大阪府フライヤー連盟

コロナ終息がいまだ見えないこの時期に、新たにハンググライディング・パラグライディングを始め、めでたく初高高度フライト（山飛び）された大阪のフライヤーに「スカイスポーツ用品券」を贈り応援します。

【期間】

2021年7月25日～2021年12月31日
（予算などによって来年も継続の可能性あり）

【対象】

下の三つすべてに該当する方

- ☐大阪府在住の方（JHFフライヤー登録番号が71から始まる方）
- ☐自分のグライダーを購入し、期間内に初飛びした方
- ☐JHF-B級パイロット技能証を取得した方（申請中を含む）

【内容】

所属スクール（所在地問わず）でハングもしくはパラ用品購入時のみ利用できる「スカイスポーツ用品券」1万円

分を進呈する

【目的】

- ☐大阪府フライヤー連盟を認知してもらう
- ☐パラ・ハング界へ入ってくれた歓迎の気持ちを伝える
- ☐わずかながらスクールやメーカーを応援する

各地スクールの皆様、大阪のフライヤーがいたら、ぜひ、この大阪府連の事業をお知らせください。詳細は大阪府連盟までお問い合わせください。

JHFハンググライディング技能証規程の改定

JHFハンググライディング教本の改訂版ができ上がり、今年6月10日に頒布を開始しました。教本の発行に伴い、2020年10月1日付で改訂したJHF技能証規程ハンググライディング編も2021年6月10日より発効となりました。

教本と技能証規程の運用についての変更点などは、下記の通りです。6月10日以降は、各地スクールでの教習が新技能証規程に沿ったものに移行していますので、ご注意ください。

技能証規程について

1. A級～P証までの区分変更

技能証規程の中で詳述していますが、簡単に説明すると以下の通りです。

[A級パイロット技能証]

ピッチとロールの最低限のコントロールができること。講習場の下段で直線飛行ができる程度を想定しています。

[B級パイロット技能証]

低空での旋回飛行ができること。講習場の上段から、進路を30度程度変える旋回ができる程度です。

◇高高度飛行はせず、その準備まで。B級取得後に高高度飛行に入ります。

[ノービスパイロット技能証 (NP証)]

C級に代わって新設しました。「エリア管理者の承諾を得た場合、管理された空域の範囲内で、自己の判断と責任において安全に離着陸が出来る」ことが目標です。

◇C級で含まれていた「初歩のソアリング」は必須としません。ソアリングはパイロット証取得課程で習得します。

◇ただし、安全にソアリングできる気象条件の時に教員の裁量でソアリング指導をすることを妨げるものではありません。

◇ランディングアプローチは、8の字と場週の両方を取り扱っています。ただし、フライトエリアによっては実施困難な場合があることを考慮し、NP証検定は、どちらのアプローチ方法でも良いことにしています。エリアの状況に合わせて運用されます。

[パイロット技能証 (P証)]

従来と同様です。

◇ただし、NP証でソアリングを必須としていないので、P証取得課程でソアリングを習得します。

◇ハンググライディングシリーズの競技参加資格がP証以上の場合があるので、P証取得課程で競技についても習得します。

[クロスカントリー技能証 (XC証)]

従来と基本的に同じです。航空法と小型無人機等の飛行の禁止に関する法律で、ハンググライダーの飛行を明確に制限する条文ができたので、ご注意ください。教本でも詳述しています。

[補助動力技能証]

今回は変更していません。

[タンデム／上級タンデム技能証]

2019年の上級タンデム証導入時の通りです。

2. C級の新規発行停止とNP証の申請について

教本の発行日である2021年6月10日をもってHG-NP技能証の運用を開始しました。今後はC級ではなくNP証の申請をしてください。

◇6月10日以降、新規にHG-C級技能証の発行はせず、それまでに習得したHG-C級技能証は引き続き有効です。

◇C級からNP証への移行はしません。C級、NP証、いずれからもP証を受検できます。

◇6月10日以降はC級からNP技能証

の教習課程に移行しているため、C級取得を目指して練習中だった方は、各スクールで教習内容をご確認ください。

3. 学科試験問題について

技能証規程改定に合わせて、学科試験問題も新しくなりました。

A級は3択問題25問

B級～P証は3択問題50問

XC証は3択問題40問と記述問題4問
いずれも70点以上で合格です。

教本について

教本の構成は、IPPIカードの基準となるCIVL SafePro Deltaの記述を参考に、「実技」「知識」「エアマンシップ」の三つを学ぶようになっています。

「エアマンシップ」とは、パイロットのスポーツマンシップ、つまりパイロットらしい心がけのことで、フライトは自己責任で行うことを理解し、安全に対して高い意識を持ち、自分と他者の安全を守るために気を配ることをいいます。

「実技(技術)」の項目は、技能証規程の実技科目と同一の並び順になっています。各課程の最後に達成度を確認する「実技科目チェック表」をつけたので、ご活用ください。この中で、習得判断基準が「教員の口頭試問」となっているものがあります。質疑応答して、内容を理解して明確に説明できたら合格と判断されます。



改訂教本では実技、知識に加え、エアマンシップを学ぶ。

理解してもらうための一步を踏み出す

新型コロナウイルスについて、感染対策などさまざまな情報を得られるようになって、フライトを自粛していた方も、少しずつエリアに戻ってきているようです。皆さんの活動が活発になる季節には、非会員の方からJHF事務局に寄せられる質問、要望、そして苦情も増えます。

自分はマナーやルールを守って飛んでいるのに、一部の非常識なパイロットのために社会から白眼視されるのは迷惑千万！ そのように感じている方は多いでしょう。でも、飛ばない人から見たら、あなたも「脅威」の一員なのかもしれません。相手の身になってこの記事を読んでみてください。

動力付きPGの騒音と「危険飛行」

昨年7月20日発行のJHFレポート230号でもお伝えしたように、最も多いのはモーターパラグライダー（パラモーター）の騒音についてです。最近、JHF事務局にあった連絡（苦情）を二つ挙げます。

●海岸のフライト-1

4月、パラグライディング教員からの連絡。モーターパラグライダーが、長い海岸線をずっとローパスでフライト（漁港を超える時だけ高度を上げた）していた。

この地域では、モーターパラグライダーだけではなく、ハンググライダー、パラグライダーも海岸で練習をしているようで、近在の方からは定期的にクレームがある。「危険を感じるので海岸を散歩することもできない」等。また海岸沿いの有料道路付近でのフライトについても、「道路に落ちたら怖い」等の連絡も。

コロナ禍で沈みがちの気持ちを上げようと海岸に来たのに、エンジンの音が大きくて気分転換にならないという声も聞こえてきます。

●海岸のフライト-2

3月、海岸近くに居住される方からの連絡。モーターパラグライダーの騒音、危険飛行について困っており、地元の役場、警察等に相談しても「法律がないので何もできない」と言われた、

とのこと。この方のメールを要約すると……

家のすぐ横を度々モーターパラグライダーが往復し、騒音や不快感で迷惑をしています。

町役場や警察の方が注意しても、飛行をやめてもらえません。110番をして警察の方に飛行をやめるよう言うてもらったこともあります。

エンジン付きで大きな音を発するのが上空を飛行するのに、法律で規制がないのはおかしいと思います。何か手続きをすれば民家周辺を飛行しないようにお願いすることができませんか。それとも事故が起きるのを待つしかないのでしょうか。よい解決方法があったら教えてください。

パイロット以外の人にとって、騒音は時に切実なもの。このケースに限らず、地元住民の方に理解をしていただくための努力が欠かせません。

まずは地元住民の方との対話を持つことが大切。フライトについて何も知らない人が何を危険と思うのか、何を不快に感じるのかを知ることからです。

またこちらの安全飛行の取り組みなどを説明することも必須。そのうえで、たとえば、民家や道路の上空は100m以下では飛ばないと、砂浜に人がいるときはその上空は避ける、飛行時間を自主規制する、一度に飛行する数を制限するなど、住民に配慮した対応ができるよう努力をすることです。もちろん単独ではなく、そこでフライトするパイロットが力を合わせて環境を守るための活動することが大切。そのためには、まずはパイロット間の対話から始めるべきでしょう。

また、地元住民をはじめ周囲の人に対して丁寧に接するのは当然のマナー。暴言を吐くなど、あってはなりません。空を飛ぶことで「自分は特別だ」と勘違いしないよう、自戒したいものです。

山頂をPGが占拠？

登山・トレッキングはコロナ禍においても老若男女に人気のスポーツ。む

しろコロナ禍だからこそ、より一層多くの人が山に出かけているのかもしれませんが。

自然のなかで過ごす爽快感は、パイロットなら皆知っていること。しかし、その楽しく快適な環境でも、こんなことが起こっています。

●山でのフライト

5月、登山を楽しむ方からの連絡。パラグライダーで飛ぶ人たちが山頂を占拠し、登山客を排除していた。山頂の一番眺めがよいところに座ると、高圧的に退去を求められた。抗議をしたが無視された、とのこと。

山はフライヤーにとってはテイクオフのために必要な場所ですが、登山客の皆さんにとっては山登りを楽しむ場所です。一つの山をできるだけ多くの人が楽しむことができるようにお互いに配慮する必要があります。テイクオフに適した場所はだいたい眺めもいい場所ですからお弁当を楽しみたい方も多いでしょう。そういう場所で退去を求められたと受け取られるような態度は慎むべきです。一人のフライヤーの配慮を欠いた対応がパラグライダー全体に対する評価を下げてしまう危険があるのです。

多くのパイロットにとっては「一方的に苦情を言われても困ってしまう」という場合も多いでしょう。

しかし、ハンググライディング・パラグライディングを楽しめるのは、社会の理解があってこそ。動力が付いていなくても、ハンググライダーもパラグライダーも「巨大なものが飛んでいて怖い」とか「落ちて来たら怖い」と感じる人もいます。それを頭の隅に置いて、安全なフライトを続けてください。

事務局夏期休暇のお知らせ

JHF事務局は8月6日（金）から15日（日）まで夏期休暇とさせていただきます。16日（月）より通常業務となります。

フライヤー会員登録や更新、技能証申請などは、お早めにお手続きをいただきますよう、ご理解ご協力をよろしくお願いします。

パラグライダーストレートディスタンス204.1km

中目みどり、初の200km超えで国内XC記録更新！

2021年4月3日 茨城県足尾山→宮城県蔵王町 報告：中目みどり

それは「伝説のタスク」と呼ばれた日のことでした。

4月3日、ジャパンリーグ（J1）大会「2021スカイグランプリ in ASHIO」の初日。

それまでの日本国内長距離記録は、昨年中川喜昭さんが自身の日本記録をさらに更新した、茨城県足尾山Inasaエリアから福島と宮城の県境近くまでの約179.8km。

それを超す180km地点をゴールに設定した日本記録更新狙いのタスク！

ですが、普段このエリアをよく飛び、選手代表で競技内容を決める側の立場であった私ですら「夢のタスク」という感じで、ゴール者が出るとは思っていませんでした。

五輪による航空機便増に伴って、羽田への航路変更がなされた関係で、足尾盆地周辺には1500～1700mの自主高度制限が設けられており、サーマル条件だと簡単に越してしまいます。

それを避けるため、15km先の高峰界隈をスタートに設定。

日本の競技としては珍しく遠いので早めにテイクオフしておきたいけれど、無情にも風が定まらずなかなかテイクオフできない時間が続き、スタート時間の12時にそこまで辿り着けたのは数人のみ。

長距離なので、スタートに間に合わなくても追い抜くチャンスはたくさんあるとはいえ、競技終了時間が17時30分と決められており、スタート地点か

らゴールまでの165kmを5時間半で飛ばなければなりません。

時速30km/h、パラグライダーの巡航速度としては楽勝と思えるかもしれませんが、当然ながらまっすぐ飛んでいけるわけではなく、蛇行もすれば高度獲得のために留まったりもしなければなりません。

自己記録の130kmフライトで5時間かかっているので、ある程度急ぐ必要があります。

先頭集団は全く見えないながらも、後続の集団としていいペースで進んでいきますが、80km地点あたりから足尾クロカンの一つのステータスでもある90km地点の白河界隈で大苦戦。このあたりで残念ながら力尽きてしまった有力選手も多かったです。

福島空港の進入禁止区域ギリギリをかすめながらセンタリングを続けて郡山入りし、自己記録・つまりは女子国内記録である130km地点を高度1500mで超えた時には感無量。そして、いつもは遠く前方に拝むだけだった雄大な猪苗代湖がいつの間にか後方に見えたのには感動しました。

既に周囲に選手はほとんどおらず、もしかしてみんな降りてしまったのかな？ ゴールは無理でも、この先、どれだけ距離を伸ばせるかなと暢気に思っていた頃、ゴール付近に複数の選手がたどり着いているらしき無線が聞こえてきて驚愕！ その中には世界の

女王・平木啓子さんもいました。

そうです、私が女子国内記録保持者でいられたのは単にここで飛ぶ機会が多かっただけで、世界に名だたる「なでしこ」たちがここを飛ばばカンタンに破られてしまうのです。

記録を破られた失意と、ゴールしないと記録は塗り替えられないという絶望感を抱えながらも亀の歩みで進み、ようやくゴール！

あとは半径1kmの円という広いゴールシリンダーの中に降ろせばいいのですが、出来ればみんながいるところに降ろしたいと思いつつ、場所が今ひとつ判りません。

目印の建物の場所をもっと遠くだと勘違いしていて、届くかどうか不安になり弱いサーマルで上げ直し始めると、穏やかなアーベントでスルスルと上がります。

あれ、降ろすのもったいないな、そういえばさっき、「ゴールに降りずに、もっと先に進む」と無線を入れてた人がいたなあ。

ちゃんとゴールに降りて、この感動のタスクを皆と語り合いたい、だけどこんなところまで来られるなんてめったにないチャンス。

ゴール後、もっと先に進んでも失格にはならないことは競技説明時に確認済みでしたので、ゴールスタッフに無線を入れ、「チャンスの神様」の前髪を掴みに先に進みました。



自己記録130km地点上空。高度1500mで通過、感無量。



いつもは遠く前方に横たわる猪苗代湖が後方に見え、感動。



安達太良山（と思われる）を後ろになお進む。



宮城県白石市上空。上部に見えるのが新幹線の白石蔵王駅。

次の街で新幹線の駅が見えてきた頃、先に国内記録を更新していた和田浩二さんから「駅の横に降ろしてます。頑張って日本記録伸ばしてー」という無線が。

帰りのことを考えると、ここで降ろすのが賢い判断ですが、賢くなれない私は、降ろすには高すぎる高度がもったいなくて、線路と幹線道路を帰り道の目印にしてさらに進みます。

自分が今いる地点がどの辺かは判らないけど、おそらく父の故郷・宮城に入っているのでしょう。

関東では散っている桜がまだ綺麗な川を越えたあたりから進みが悪くなり、向かい風とぶつかったのを感じました。頑張ればもう少し行けそうでしたが、頼みの道路と線路が離れて行ってしまうのと日没時間が気になり、安全を考えて無理せずランディングしました。

帰る手段を調べようとスマホを見ると、メッセージがいっぱいでびっくり。その中に「日本記録、200km超えた」の文字を見て、なんだあー、もっと先に行ってる人がいるのか〜と、ちょっとがっかり。それが自分のことだとは判っておらず、気づいたときには二度ビックリ！

パラグライダー初の国内200km超えフライトで記録更新できたことは、本当に嬉しかったです。

フライト時間はちょうど6時間。飲まず食わず（水はちょっと飲みますが）、トイレにも行きたくならず飛び続けられる丈夫な身体に感謝です。

この「伝説のタスク」のゴール者は14人。さらに距離を伸ばせた人は他にもたくさんいましたが、「180kmレース」をいかに速くゴールするかだけに集中し、ゴールに照準を合わせてフライトしていたトップ選手たちは、その後飛び続ける気力と体力が残ってなかったとのこと。

「少しでもゴールに近づければ」とゆるゆる飛んでいた私とは、わけが違います。記録は出しましたが、競技としての覇者は彼らです。

この日の素晴らしい条件を読み切った「日本国内記録タスク」を提言した、競技委員長の板垣直樹校長が「伝説のタスクと言われているが、知識と経験に裏づけされた必然の結果」と言い切ったのには、本当に痺れました。

その後、ハングもパラも好記録が続出し、冗談まじりに「あなたが火をつけた」とも。

記録更新・初の200km超えはもちろん嬉しかったですが、みなさんから「パラの可能性を広げてくれてありがとう」と言われたのには本当に驚きました。暗い話題が多い中、少しでも元気を届けられたのなら嬉しいです。

6年前の女子記録更新の際のJHFレポートにも同じことを言っていましたが、クロカンはある程度の技術を持ち、気象条件が整えば誰にでもチャンスがあります。

すでにクロカン好きの皆さんに「よし、次こそ自分が！」と思っていた多くのはもちろん、まだやったことのない方も「クロカンて面白そう、いつかは自分のエリア記録を更新したい！」と興味を持つきっかけになれば、これ以上の喜びはありません。



中目みどり

パラ歴28年。ホームエリアは茨城県足尾山・nasa。クロカンをこよなく愛するコンペティター。2012年女子日本選手権者、2018年オーストラリアワールドカップ女子2位。学校での体育の成績は常に「がんばろう」だった、自称「運動が苦手な人の星」。モットーは「今日しか飛べないわけじゃない（＝だから無理しない）」

ハンググライダー国内XC記録、岡田伸弘・福田佳代が更新！

中目みどりさんの200km超えフライトに沸いた足尾山は、XCのメッカ。毎春、より遠くを目指し、パラもハングも多くのXCパイロットがこのエリアを飛び立つ。彼らが「伝説のタスク」に、そして中目さんの新記録に奮い立ったのは言うまでもない。

4月11日、長く更新されなかったハンググライダーXC女子の国内記録を塗り替えたのは福田佳代さん。足尾から福島県郡山市まで132kmを5時間12分でフライト。翌12日には、岡田伸弘さんがクラス5のハンググライダーで宮城県仙台市までの240kmを6時間9

分で飛び、2020年4月4日に岡山県大佐山エリアから滋賀県竜王町までの236.8kmをクラス1機で飛行した田中猛さんの国内記録を超えた。

さて、来春は誰がどんな好記録で驚かせてくれるのか。そのときコロナ禍が終息しているよう切に願う。

各地の新歓活動

コロナ禍により県外への移動が制限されるなかでの活動となり、パラグライダーやハンググライダーの学生大会も中止となりました。特に関東では、サークル活動が大学側によって禁止または制限されたところもあります。そのような状況下、各大学で2021年度の新入生歓迎会を行いました。

茨城の足尾エリアで活動する学生は多くの上級生に加え、NASAのインストラクターを招き、ZOOMによるオンライン新歓を実施。インストラクターのハング・パラに関する説明の後、サークルごとにグループを分け、より詳しい説明を行いました。昨年の説明会では説得力を持って伝えることができなかった安全性やイントラの存在を新入生に伝えることができたため、昨年に比べ反響が大きかったように感じます。

また、足尾・板敷エリアでは、感染症対策を徹底して現地での体験会も行いました。例年通りハング・パラの浮遊体験とテイクオフ見学に加え、ハーネスを実際に装着し、私たちがどのような姿勢で飛んでいるのか、緊パラや吊り糸の丈夫さ等を実際に感じてもらうことで、新入生によりリアリティーを持たせることができたように感じました。パラグライダーやハンググライダーというスポーツをより身近に感じさせることができ、例年よりも入部を検討してくれた新入生が多いように感じました。結果、足尾で43人、板敷では10人という、関東だけで53人の新入生が入部してくれました。

東北でも、浮遊体験会、費用等の説明会を開催し、三つの大学を合わせて23人の新入生が入部しました。やはり自分自身が浮くという新鮮な感覚を味わえたことが、入部の決め手になっているようです。



新歓：パラグライダー体験

北陸では、新型コロナウイルスの影響により当初の予定通りの体験会はできなくなりましたが、海岸での練習体験会、山飛びの見学会、大学敷地内での体験会などを開催し、新入部員を獲得したそうです。

九州では、緊急事態宣言の発令前に山飛び見学会をしましたが、それ以降は大学の制限により一切の活動を中止。また昨年度は、インストラクターの意向により新入生の入部を取りやめていたため新歓活動が行えていない状態が続いていました。今後は緊急事態宣言と大学からの制限が解除され次第、新入生の講習を始める予定です。

中国地方の山口大学は新歓を開催することができ、体験サークルの紹介ブースに30人前後の学生が来てくれたようです。また体験サークルには10人程の参加があり、例年通り5、6人の新入生が入部してくれました。昨年度は対面での新歓が行えずSNSなどで呼びかけましたが、入部に至ったのは例年より少なくハングとパラに1人ずつだったそうです。広島大学では緊急事態宣言が解除されるまで活動を休止しています。また、鳥取大学は通常通り新歓も行っていますが入部には至っていないようです。

関西では、P.F.C.は6月から活動を再開していますが新歓は行えていません。zephyrは5月後半あたりから活動を再開。新歓は主にビラの掲示やSNSを通して行っており、4人の入部が決まり、さらに2人の新入生が検討中ということで例年通りの人数といえるでしょう。

筆者が入部したのは、先輩方が桜の景色の上をハンググライダーという機体に乗って悠々と飛ぶ姿にあこがれたことがきっかけでした。そのようなきっかけでサークルに入ることを決めた部員は私だけではないでしょう。新歓活動が十分に行えずサークルに出会うきっかけが少なくなっている現状を残念に思います。新歓活動が行えないエリアも行えるエリアも、新入生がハングやパラを知るきっかけとなる情報を途絶えさせないことが共通の目標としてあるように思えます。

コロナ禍により必須となったSNSでの新歓は、体験会を主軸にしていた私



新歓：ハンググライダー体験

たちにとっては、楽しさを伝えるのが難しい方法でしたが、体験会に比べ参加しやすく、動画や画像の使用で、普段私たちが活動しているエリア以外でも飛べることや縦横に広く深い繋がりを築けることを実感させることができました。この2年で、より相手に伝わりやすいSNSでの発信方法を学びました。コロナ禍が収まり体験会が主軸の新歓に戻っても役立つこれらのノウハウは、後世に引き継ぐ必要があるでしょう。

しばらくはコロナ禍以前のような方法で新歓活動が行えない状況は変わらないでしょう。「新入生が安心して体験できる状況を作るにはどうしたらよいか」などたくさん課題がありますが、スカイスポーツを通して各エリアの魅力などを共有できると良いと思います。以前の活気あふれる新歓活動が再び行えることを願っています。

2021年度の学連活動

今年度のNASAS及び砂丘合宿は、参加者も運営側も現時点で行動を確定することが難しいため、中止する方向で現在動いています。しかし、大会や合宿の運営ノウハウや参加する楽しさは引き継ぐ必要があると考え、草大会や開催地で活動する学生を対象としたミニ合宿を行います。協力して下さるインストラクターや社会人及び関係者の方々、よろしくお願いします。

最後に今年度も、コロナ禍により活動が大幅に制限されるため色々難しい年になると思いますが、私たちはその中でも学生がスカイスポーツを安全に楽しむことができるよう活動して参りますので、応援よろしくお願いします。

日本学生フライヤー連盟
理事長 齋藤達也

JHFからのお知らせ

■オリ・パラ競技大会に伴う飛行制限

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に伴い、国土交通省から飛行制限区域を定める告示が出されました。フライトの前に飛行制限区域を確認してください。各地の競技会場をはじめ多くの区域が指定されていますので、必ず確認をお願いします。

詳細は、JHFウェブサイト、5月7日の「連盟からのお知らせ」（トピックス）をご覧ください。飛行制限区域の概要図もチェックできます。

■HG教本／PG教本を好評頒布中

ハンググライディング技能証規程の改正に伴い、教本の内容も大幅に見直し、『JHFハンググライディング教本改訂版』を2021年6月に発行、頒布を開始しました。A4サイズ、224ページ、モノクロ印刷。（10ページに技能証規程の改定と教本改訂について掲載していますのでご覧ください。）

また、2021年3月、皆さんにお待ちいただいていた『JHFパラグライディング教本改訂版』を発行しました。A4サイズ、176ページ、カラー印刷。

どちらの教本も、写真や図を用いてわかりやく解説しています。入門者はもちろんのこと、既に経験を積みフライトを楽しんでいるパイロットにもぜひ



第8回JHFフォトコンテスト 作品募集中！

第8回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストにぜひご応募ください！

JHFは、ハンググライディング・パラグライディングの素晴らしさ、楽しさ、そして身近なスカイスポーツであることを伝えられる「写真」が、普及と振興のために役立つと考え、フォトコンテストを開催しています。



第7回最優秀賞 江端邦昭さん撮影「夜明けの空」

ひ読んでいただきたい内容です。

HG教本、PG教本とも、1冊3,000円（送料込み）。一度に10冊以上ご注文の場合は、1冊2,800円です。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。事務局にご注文の場合は、JHFウェブサイト「JHFのご案内〔書籍情報〕」から注文書をダウンロード、必要事項をご記入ください。代金をお振り込み（送金手数料はご負担ください）のうえ、注文書と代金振り込み控えを郵便またはFAXでJHF事務局にお送りください。ご入金を確認後、教本を発送します。

■チェック5タグを頒布中

JHFではハンググライディング・パラグライディングの事故撲滅を目指して「空の事故ゼロキャンペーン」を実施。その一環として「チェック5タグ」を作り、2018年にフライヤー会員の皆さんにお届けしました（新規会員の方には登録時にお届け）。

ハーネスなどに装着し、テイクオフ前にタグを読み上げて、プレフライトチェック（セルフチェックならびにクロスチェック）をしっかりとったことを確認していただくためのものです。

今年もレッグベルト締め忘れによる重大事故が起きてしまいました。「自分は大丈夫、ベルトを締め忘れるはずがない」と思い込むことなく、タグを読み上げての飛行前確認をぜひ習慣に

ししてください。印画紙でのご応募だけでなく、データでのご応募（10MB以内、jpg形式、メール送信可、ただし応募専用アドレスまで）も受け付けています。

賞金は、最優秀賞（1作品）5万円、優秀賞（1作品）3万円、入選（数点）各1万円です。

また、応募作品の中から季節感のある優れた作品14点を選び2022年JHFカレンダーを制作の予定です。

応募締切は9月6日（月）受付まで（郵送の場合は当日消印有効）。

自分の力で空を滑空できる醍醐味を感じられるような作品、空の楽しさを伝えてくれる作品を期待します。詳しくはJHFウェブサイト（3月26日トピックス）をご覧ください。多くのご応募をお待ちしています。

してください。

このタグをご希望の方は、各地のJHF登録スクールでお求めください。JHF事務局から直接お送りすることもできます。1セット300円（送料込み）。メールかFAXでご連絡をお願いします。

■HGクラス5の日本選手権を開催

コロナ禍による緊急事態宣言、まんえん防止等重点措置の発令を受けて延期していた「2021年ハンググライディングクラスV日本選手権 IN ASHIO」の開催日が決まりました。9月23日（祝）から26（日）までの4日間、茨城県石岡市足尾山のハンググライダーエリアで、国際航空連盟（FAI）カテゴリー2大会として行います。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、中止する場合があります。最新情報をJHFウェブサイト、HG競技委員会のページでご確認ください。

■HG世界選手権を2023年に延期

7月18日から北マケドニアで開催予定だった「第23回FAIハンググライディングクラス1世界選手権／第9回FAIハンググライディングクラス5世界選手権」は、パンデミック下での海外渡航の懸念から、米国、英国、イタリア、オーストリア、オーストラリア、ブラジルが参加を見合わせる事となり、開催の意義が大幅に失われたため延期、2023年の開催となりました。

■PG日本選手権2021は中止

5月1日から5日まで和歌山県紀の川フライトパークで開催を予定していた「パラグライディング日本選手権2021 in 紀の川」は、東京、大阪、兵庫、京都の4都府県に緊急事態宣言が発令される見通しから、大会実行委員会の決定により、中止となりました。

■氏名・住所変更のお知らせを

毎号JHFレポートが宛先不明で事務局に戻って来ます。お名前やご住所に変更があったら、早目に事務局にメールかFAXで下記をお知らせください。

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしもお仲間に転居された方がいたら「JHFに連絡した？」と声をかけていただくと、たいへん助かります。

■転居のお知らせや各種申し込み

お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

https://jhf.hangpara.or.jp

ただいま事務局業務を時間短縮・テレワーク等の感染対策をしながら行っています。ご連絡はできるだけメールでお願いします。回答が通常より遅れることがありますが、順次対応をいたしますのでご理解ください。

*このJHFレポートには、賛助会員からのお知らせ、ハングパラ振興委員会からご紹介（7ページ）した映画「ブルーヘブンに君に」のチラシを同封しています。また、神奈川県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・

パラグライディング連盟

JHFレポート234号

発行日：2021年（令和3年）7月20日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト



www.toto-dream.com www.toto-growing.com
 ① 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。
 運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員(JHFウェブサイト)にバナーを掲載)からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。